



七色のかがやき

長崎市立虹が丘小学校 学校便りNo.4

令和7年 5月13日(火)

編集・発行責任者 校長 池田敏典

E-mail e52@nagasaki-city.ed.jp

G-mail nijigaoka@gmail.com

『誠実』かつ『真面目』で規律正しく！

真面目は、道徳的な解釈から表面的な行動で判断されがちです。例えば、心が伴っていないと「ありがとう」「ごめんなさい」「お願いします」がきちんと出来れば礼儀正しいと見られるのでしょうか。

これに対し、誠実さは内面の問題であり、見た目の言動や印象ではなく、自分で決めた信念を守り抜こうとする姿勢にあると考えます。表面的な真面目とは違い、心の豊かさや強さがあります。そう考えますと、誠実さを基盤とした道徳的行動をとれる姿が理想的ですね。

教育の在り方を考えるに、表面的で道徳的な見方ではなく、人間性…つまり内面にある誠実さを見ながら子どもたちを指導していかなければと思います。毎年、子どもたちに願うのは“勉強のできる人より人間ができた人に”です。

話が変わりますが、校長として「いまの虹が丘小学校は本当にいい学校だろうか」と、真剣に悩んでいます。昨年度の学校便りでは「“いい学校になったなあ”と思います」と記したことを思い出しますが…。

以前、ある教育雑誌で目にした記事を記します。

学生を指導していると、しばしば感じることもある。こちらがいろいろとアドバイスを行った時に、意欲的に反応を示す学生がいる一方で、あまり積極的に反応しない学生もいる。

前者の学生は、アドバイスに対して「そうだったのか」「そこまでは知らなかった」「では、この場合はどうしたらよいのか」などの反応を表す教わり上手なので、こちらから指導意欲が高まり、学生が求めた以上にいろいろなアドバイスを行うようになる。

勿論、教え方は大事だが、教わる方にはどう教わるのかという「教わり方」が必要だと思う。教わり方が高い学生は、教員の「教え方」をうまく引き出しているの

「論語」に「不憤不啓、不悱不発」(ふぶんふけい、ふひふはつ／学生が自分で考えて問題を解決しようとする意欲が湧かなければ教え導くことはしない。自分の考えを言い悩んでどう表現していいのかわからなければ教え導くことはしない。4隅ある物事のうち一つ(ヒント)を与えてやれば、その他の3隅を自分で考えるようであれば、二度と教えない。)という言葉がある。意識すれば、「孔子は、弟子が理解しようとしなければ教え導かず、表現に苦しんでいるようであれば教示しない」ということである。「啓発」の語源である。孔子も「教わり方」がよくない弟子には積極的に教え導くことをしなかったようである。

学校教育界では、児童生徒の理解不足をどうしても指導力の責に帰する傾向がある。しかし、「教わり方」の育成がもっと注目されてよいと思う。

～日本大学教授・佐藤晴雄「内外教育」2021.4.27より

私たち教師の一番の役割は、授業を通して子どもたちをよりよく成長させることです。学習内容である知識・技能を定着させることは勿論ですが、すぐには解決できないことに取り組ませることで、集中力や考える力などを高めていくこと、そして、様々な考えにふれさせることで、相手に対する思いやりを育むと同時に、話をする友達、教えて下さる先生への礼儀等、あらゆる面から指導していきます。したがって、一つの授業を仕組むのにも、何時間もかけて準備しています。学校の働き方改革が叫ばれる所以の一つではありますが、やはり、授業を一番に考えるのが、私たち教師なのです。

では、子どもたちの授業中の姿はいかがなものでしょう…。座り方、話の聞き方、取り組み方…様々な面で課題を感じています。また、廊下の折り鶴も乱れがちです。何度付け替えても、すぐにつぶれていたり、散乱していたりと、そうした場面を見て、とても残念に思っています。勿論、真面目に、そして、誠実に学習に取り組んでいる子どもたちもいます。周りに注意して廊下歩行をしている子どもたちもいます。

御家庭でのお子さんの姿はいかがでしょう。やはり、大切なのは『勉強のできる人より人間ができた人』です。『集団生活で大切な規律を正し、授業をする方も、授業を受ける方も、気持ちよく充実した時間を過ごし、毎日が『うるとらはっぴい!』な虹が丘小学校にしていきたいと強く思います。

学習の大切さはもとより、誠実かつ真面目で規律正しい姿の大切さについて、御家庭でも語っていただきますようお願いいたします。学校と御家庭が連携して、子どもたちをよりよく成長させていきましょう。